

363 ^{67}Ga -fibrinogen-DAS-DFO の血栓検

出能に関する基礎的検討

川崎幸子, 日下部きよ子, 重田帝子(東女医・放)
高橋啓悦, 上田信夫, 葉枝正昭(日本メジフィジ
ックス・技術部)

静脈内にカテーテルを留置したラットを用い ^{67}Ga -fibrinogen-DAS-DFO(以下、 ^{67}Ga -fibrinogenと略)の血栓検出能を評価した。SDラット150~200gをネンブタール麻酔下にて頸静脈から上大静脈にシリコンカテーテルを留置し、 ^{67}Ga -fibrinogen投与後にシンチグラフィーおよび各臓器、留置カテーテル周囲の血栓部の放射能を測定した。又、autoradiographyを行ひmacroautoradiogramにて臓器分布、血栓部への集積を観察した。結果は1)autoradiographyにてカテーテル周囲の血栓に ^{67}Ga -fibrinogenの高度集積が確認された。2)血中消失は比較的早く、約48時間で平衡に達し、正常ラットにRI投与後経時的に撮像した結果より、至適撮像時間は48時間前後であった。3) ^{67}Ga -fibrinogenの留置カテーテル周囲血栓への集積は、カテーテル留置5日から14日まで観察したところ、5日で最も高く、14日まで漸次減少した。4) ^{67}Ga -fibrinogenの留置カテーテル周囲血栓への集積が高いほど、肝への集積が高くなることから、肝臓の集積率の測定が血栓の有無の判定に有力な指標となると考えられた。(本研究は、厚生省核医学診断薬剤開発研究班研究の一環として行われた。)